

△フロリチン家兎の体内に於ける—及びマンローセの變化状態に就て 前田實(醫會三〇ノ一ノ五〇)

○レントゲン潰瘍  
△—の三例 佐藤邦雄(皮膚一六ノ六ノ四四)

○レントゲン火傷  
—に就て 藤浪剛一(實醫二ノ二二ノ七八四)

○レントゲン管球  
ギバ—「圖入」 極到生(醫週一〇九三ノ二)

○レントゲン器械  
△肥田氏複式— 肥田七郎(外科一七ノ一ノ七〇)(中外八八〇ノ一四一五)

○レントゲン光線  
胃痛診断上レントゲン検査法 「イ」胃痛を見よ  
×線及ラヂウムの内科的實地應用 眞鍋喜一郎(實醫二ノ二〇ノ七二〇)

×放射線による腎結石 「シ」腎臓結石を見よ  
横痃のレントゲン治療 「オ」横痃を見よ  
外科に於けるレントゲン放射線 「ケ」外科的疾患を見よ  
骨盤内より腹腔に至る巨大なる腫瘍のレントゲン療法に依て治療したる一例 「圖入」 黒岩徳明(醫誌一九八三ノ八)

實地家は如何にレントゲン線を應用すべ

きか「圖入」 肥田七郎(醫誌二〇〇〇ノ附三四)  
成人に於ける第五腰椎のレントゲン像 「ヨ」腰椎を見よ  
内科疾患に於けるレントゲン療法 「チ」日本人健康胃のX光線検査 「イ」胃を見よ  
肺結核のレントゲン療法 「ハ」肺結核を見よ  
肺チストマ病のレントゲン診断 「ハ」肺チストマを見よ  
腕近レントゲン深部療法「圖入」 浦野多門治(日新五ノ五ノ八二七)

皮膚科に於ける放射線療法 「ヒ」皮膚病を見よ  
慢性白血病に對するX放射線療法 「ハ」白血病を見よ  
レントゲン放射線の動物血清抗トリブリンに對する作用に就て 井上重喜(外科一七ノ四ノ一〇七)

レントゲン放射線の皮膚照射方法に就て 「圖入」 浦野多門治(臨集一〇ノ八六)

レントゲン線を以て測定せる胃運動機能 「イ」胃運動を見よ  
△X光線の痛腫に對する影響 「カ」痛腫を見よ  
△慢性喉頭結核に對するレントゲン放射線 「コ」喉頭結核を見よ  
△網膜膠腫の退行とX放射線 岩崎小四郎

△食餌性ヒェルコレステリ子ミに於ける眼球的變化、殊に人工的—に就て 中野孝圓(北越二〇ノ二七六)

○狼瘡 「カ」乾癬様圓盤狀紅斑性—を見よ  
尋常性—「圖入」 筒井八百珠(岡山三二ノ七九四)

△チアノクアプロールの—に對する臨牀實驗一例 佐藤邦雄(醫會三〇ノ三ノ四八)

○濾過法 「チ」著色 —「ニ」妊娠診断を見よ

○肋間神経痛 肋骨骨折後に起りたる— 瀧本義信(實醫二ノ二〇ノ六四五)

○肋骨異常 △—(肉又狀分岐)患者供覽 木村茂太郎(北越二〇ノ二七七)

○肋骨横突起切除 脊椎カリエスの—「セ」脊椎カリエスを見よ

○肋骨骨折 後に起りたる肋間神経痛 瀧本義信(實醫二ノ二〇ノ六四五)

(中外八八〇ノ一四一五)  
△ラヂウム及X線の内科的應用 眞鍋喜一郎(中外八六九ノ六九二)

△レントゲン線配量に就て 浦野多門治(外科一七ノ一ノ六七)(中外八七九ノ一三五二)

△レントゲン療法の際結核に對する効果 「セ」肺結核を見よ  
×胸部疾患に對するX放射線 「キ」胸部疾患を見よ  
×外科的結核症のレントゲン療法 「ケ」外科的結核症を見よ

○レントゲン寫眞術  
—に就て「圖入」 小川重一(岡山三一八ノ六二九、三二〇ノ七二五)

○連鎖狀糞瘰疹  
△遠山氏—の二例 玉懸守約(北越二一ノ五八六)

○連鎖狀球菌病  
△大正三四年中澎湖島に發生せし—に就て 伊東正成(臺灣一六三合一六四ノ四六〇)

○連鎖狀球菌 「チ」結核性—を見よ  
—等の混合傳染による肝臓膿瘍 「カ」肝臓膿瘍を見よ  
—による敗血症毒症の一治驗 藤田秀一(醫誌一九八四ノ五)

○連鎖狀球菌敗血症

—に因する急性黄色肝萎縮の一例「圖入」 森添宗雄(大阪一五ノ一ノ七六一)

○連續音叉 和製の— 黒須巳之吉(醫週一〇九八ノ四)

○煉乳 本邦産—に就て 小出部鎮(藥劑二一〇ノ二三)

○ロースパッパ氏 —「肖像及小傳」(治療二〇九ノ首)

○ローゼル、テラトシ氏腺 △—に就て 木島一郎(外科一七ノ一ノ四一)(中外八七二ノ八二九)

○瘻管 「セ」正中頸—「ナ」内臓器—を見よ

○癆症性胸廓 ×—論並に肺尖結核の手術に就て 佐藤清一郎學位論文要旨(順天五二五ノ四三)(臨醫四ノ二ノ一六七七)

○老人環 コレステリン試食物に於ける眼球及び附屬器の變化、殊に其の人工的—に就て「圖入」 中野孝圓(醫會三〇ノ二ノ三三七)

レ(連、煉)ロ(口、瘻、癆、老、狼、濾、肋)ワ(ツ)

○肋軟骨 △—の組織的所見に就て 堀澤治吉、田澤孝次(中外八七二ノ八八九)(病理六ノ一七七)

○肋膜内皮細胞腫 所謂—の一例に就て「圖入」 大谷善朝(大阪一五ノ九ノ六〇〇)

ワ

○ワイズ氏反應 「ウ」ウロクロモイゲン反應を見よ

○ワイル氏病 「ナ」七日熱を見よ  
—に關する知見追加(第三、四) 飯田豊三(醫誌一九七八ノ七、一九九五ノ一)

—の治療血清及イマミコル療法實驗報告(摘録)「表入」 伊東徹太、松崎春一郎、今井功、金淵玉、天谷賢作、藤崎正樹、山本正夫(醫誌二〇〇四ノ六)

—の療法「表入」 松崎春一郎(醫誌一九八八ノ八、一九九二ノ一二、未完)

○黄疽出血性スピロヘータ病に因する虹彩毛様體炎の一例 宮下左右輔(眼科二〇ノ五ノ四八四)

○黄疽出血性スピロヘータ病に後發する眼症状に就て 中村文平(眼科二〇ノ五ノ四九四)

○黄疽出血性スピロヘータ病の動物試驗成



織 小林久雄(醫開九四二ノ一〇)  
 黄疽出血性スピロヘータ病の病原體保有者たる鼠と傳染徑路との關係に就て、附黄疽出血性スピロヘータ病豫防法追加(圖入) 井戸泰、法費六郎、伊藤照、和邇秀恒(醫誌一九七八ノ一、一九七九ノ一)  
 黄疽出血性スピロヘータ病(一)の臨牀的知見 長尾美知(近醫三ノ二二〇七七九)  
 茨城地方の黄疽出血性スピロヘータ病に就て 長尾美知、若澤文貞(千葉八〇合八ノ一)  
 京都市に於ける黄疽出血性スピロヘータ病に就て 齋藤大雅(京都二七二ノ一三三)  
 チフテリア純精抗毒素及び——に就て野口英世博士の書簡(醫週一〇九九ノ二)  
 東京市内に發生したる軽度の黄疽出血性スピロヘータ病(一)の一例 井上久太郎(醫誌一九八〇ノ八)  
 富山縣射水郡に發生したる熱性黄疽病調査報告(圖入) 春日健造(軍開六三ノ三二九)  
 富山縣に於ける日本黄疽出血性スピロヘータ病の見聞一片 澤井孝昌(十全二〇ノ二二)  
 長岡市附近に流行せる——に就て 澤崎寛制、大森修三(實醫二ノ二七ノ三七二)

日本黄疽出血性スピロヘータ病(所謂——)(圖入) 長尾美知(實醫二ノ一七ノ三六五、二ノ一八ノ四七七)  
 日本黄疽出血性スピロヘータ病に就きて 山田外男(中外八七七ノ二〇七)  
 兵庫縣下に於ける黄疽出血性スピロヘータ病に就て 宮下左右輔(大阪一五ノ三ノ一八二)  
 ワクチン注射による黄疽出血性スピロヘータ病の豫防法實施報告(第一報告) 附病原體の名稱及病名の訂正 井戸泰、法費六郎、伊藤照、和邇秀恒(醫誌一九六四ノ二)(内雜四ノ八ノ四三五)  
 △黄疽出血性スピロヘータ病の眼症 宮下左右輔、中村文平(中外八六八ノ六一九)(内雜四ノ八ノ四四六)  
 △黄疽出血性スピロヘータ病の血清療法 稻田龍吉、井戸泰、法費六郎、伊藤照、和邇秀恒(實醫二ノ二二ノ八三〇)(中外八七〇ノ七五七)(内雜四ノ八ノ四四二)(醫海一一三六ノ三)  
 △黄疽出血性スピロヘータ病の症狀に就て 稻田龍吉(中外八六八ノ六一九)(内雜四ノ八ノ四一九)  
 △黄疽出血性スピロヘータ病の不全型(黄疽を示さざる者)と七日熱との關係に就て 井戸泰、和邇秀恒(中外八七〇ノ七五八)(内雜四ノ八ノ四二九)(病理六ノ一九三)

△千葉に於ける小兒黄疽出血性スピロヘータ病に就て、附討論 長尾美知(兒科一九七ノ七四)(中外八七三ノ九五三)  
 ×醫學博士稻田龍吉及び井戸泰の黄疽出血性スピロヘータ病(所謂——、熱性黄疽等)に關する研究の審査要旨 帝國學士院授賞論文審査要旨(醫誌一九七六ノ一六)(臨醫四ノ一一ノ一五四三)  
 ×黄疽出血性スピロヘータ病の動物試驗 駿島爲造(醫中二四一ノ五四一)  
 ○ソイル氏病スピロヘータ  
 —純精培養に就て(第三回報告)、附同病原體及び療法(血清及び化學的)(表入) 伊東徹太、松崎春一郎(千葉八三ノ一、八四ノ二)  
 —の純精培養に就て(圖及表入) 大原清之助(醫開九五〇ノ一)  
 サルゲアルサン及免疫血清注射試驗を経たる海狗臟器内の黄疽出血性スピロヘータの所見、附血清療法を施せる黄疽出血性スピロヘータ病患者の解剖例の病原スピロヘータの所見に就て 金子廉次郎、奥田喜久三(内雜四ノ八ノ四三二)(病理六ノ一九九)  
 早期黄疽出血性スピロヘータ病解剖例に於ける同病原體スピロヘータの分佈狀態(圖入) 金子廉次郎、奥田喜久三(醫會三〇ノ二ノ三三)  
 鼠系黄疽出血性スピロヘータに就て(圖

入) 宮路重嗣(北越二一〇ノ四二〇)  
 動物試験に依る黄疽出血性スピロヘータ病に於ける眼球内スピロヘータの分佈狀態及其組織學的變化に就て(圖入) 小林久雄(醫開九五九ノ一)(北越二一〇ノ四七四)  
 所謂——の純精培養に就て(圖入) 伊東徹太、松崎春一郎(千葉七六ノ一)(皮膚一六ノ三ノ一)  
 ワイル病原スピロヘータ純精培養第四報告(摘録)(馬血清寒天或はセラチン培地) 松崎春一郎(醫誌一九八八ノ一五)  
 △——の純精培養法に就て 大原清之助(八七九ノ一三四四)  
 △——の純精培養法に就て 大原清之助(福岡九ノ五ノ五五〇)  
 △——の純精培養、本病原體防液及び同液血清の供覧 伊東徹太、外五名(醫會三〇ノ二ノ五七)  
 △黄疽出血性スピロヘータの純精培養に就て 井戸泰(中外八七〇ノ七五八)(内雜四ノ八ノ四二六)  
 △黄疽出血性スピロヘータの侵入門並に感染徑路の研究 大庭七郎(中外八六八ノ五二〇)  
 黄疽出血性スピロヘータの眼に於ける分佈狀態に就て 宮下左右輔(中眼八ノ二ノ八一〇)

△人體に於ける黄疽出血性スピロヘータの分佈に就て 金子廉次郎(中外八六七ノ五五三)(内雜四ノ八ノ四二二)(病理六ノ一八七)  
 △ワイル氏病原スピロヘータの純精培養 伊東徹太、松崎春一郎(中外八五九ノ二八)  
 ○ワクチン  
 感作——と豫防注射の實施 志賀潔(細菌二五三ノ一六〇)  
 所謂感作——とは何ぞ 志賀潔(醫界一八二ノ二)  
 豫防注射と感作—— 志賀潔(近醫三ノ一〇ノ六四一)  
 ○ワクチン療法 「ケ」結核「コ」成列刺ワクチン「チ」腸室扶助ワクチン「ヒ」百日咳ワクチン「フ」葡萄球菌ワクチン  
 —に就て 石原巖(顯微二三ノ五ノ二)の一文 坂上弘藏(醫誌一九九四ノ二五、一九九六ノ二九)  
 —の趨勢に就て 坂上弘藏(顯微二三ノ四ノ一)  
 A型バラチフスに——「ハ」バラチフスを見よ  
 結核の——「ケ」結核を見よ  
 腎盂腎臟炎に對する自家——「シ」腎盂腎臟炎を見よ  
 室扶助——「チ」腸室扶助を見よ  
 百日咳——「ヒ」百日咳を見よ

ワクチン診断及療法の恐るべき實驗例 渡邊照(醫週一一一ノ一七)  
 ワクチン注射による黄疽出血性スピロヘータ病の豫防法 「ワ」ソイル氏病を見よ  
 ドクトル渡邊君に與ふ 有馬賴吉(醫週一一一ノ一六ノ七)  
 有馬賴吉君に答ふ 渡邊照(醫週一一一ノ一六ノ七)  
 ○矮人 「シ」俵儒を見よ  
 ○若杉喜三郎 君(實儀及小傳) (北越二〇七ノ首)  
 ○和歌山縣 衛生概況 土橋熊太郎(大衛三九四ノ七〇)  
 ○和漢醫學 漢學漢法醫談(承前) (實際一〇一ノ四一五、一〇二ノ四九二、一〇三ノ五七四、一〇四ノ六三七、一〇七ノ八五八)  
 漢方古方劑の治驗 北郷保守(順天五二五ノ八)  
 研究し實驗すべき——の性能(承前)(圖入) 岡崎桂一郎(實醫二ノ一六ノ三四二、二ノ一七ノ四四〇、二ノ一九ノ六二二、二ノ二一ノ七九〇、二ノ二三ノ九六五、三ノ二六ノ一六二)  
 雜錄片々 北郷保守(順天五二八ノ四二二)  
 △一二——に就て 酒井和太郎(醫會三







醫學博士 富士川 游校訂 帝國圖書館司書 太田爲三郎編纂

# 日本醫事雜誌索引

菊判假綴  
紙質上等  
印刷鮮明

## 既刊

- 明治二十八年分 正價八拾錢 郵稅六錢
- 明治二十九年分 正價八拾錢 郵稅六錢
- 明治三十年分 正價六拾錢 郵稅四錢
- 明治三十一年分 正價五拾錢 郵稅四錢
- 明治三十二年分 正價七拾錢 郵稅四錢
- 明治三十三年分 正價八拾錢 郵稅四錢
- 明治三十四年分 正價九拾錢 郵稅四錢
- 明治三十五年分 正價七拾錢 郵稅四錢
- 明治三十六年分 正價八拾五錢 郵稅六錢
- 明治三十七年分 正價八拾錢 郵稅六錢
- 明治三十八年分 正價壹圓 郵稅四錢
- 明治三十九年分 正價八拾錢 郵稅四錢
- 明治四十年分 正價八拾五錢 郵稅六錢
- 明治四十一年分 正價八拾錢 郵稅四錢
- 明治四十二年分 正價八拾錢 郵稅四錢
- 明治四十三年分 正價壹圓拾錢 郵稅六錢
- 明治四十四年分 正價壹圓拾錢 郵稅六錢
- 明治四十五年分 正價壹圓拾錢 郵稅六錢
- 大正元年分 正價九拾五錢 郵稅六錢
- 大正二年分 正價壹圓卅錢 郵稅八錢
- 大正三年分 正價壹圓卅錢 郵稅八錢
- 大正四年分 正價壹圓八拾錢 郵稅八錢
- 大正五年分 正價貳圓四拾錢 郵稅八錢
- 大正六年分 正價貳圓四拾錢 郵稅八錢

## 醫學書目録

弊店發行の圖書目録は年々二回以上の改版を  
なし新刊書籍を紹介致居候間目録御入用の諸  
賢は御申越被下候へば直ちに送呈可仕候

### 醫書專賣

東京市本郷區龍岡町  
吐鳳堂書店  
振替東京四一八番(電話一六七二番)

## 商品券 調製

弊店醫科器械類の發賣に従事仕候てより日尙淺きにも係らず江湖諸  
賢の御愛顧により書店同様日に増し繁榮に赴き候段難有奉感謝候弊  
店發賣の器械類は舶來以外は總て熟練なる専門良工に命じ製品は精  
巧・優美・耐久を旨とし調製致居り候間遠隔の地より御注文に相成候  
ても御來店の上親しく御選定被遊候ものと毫も差異なき品を御送り  
申誠實に御用命に應じ候間多少に係らず御注文の程偏に希上候

東京市本郷區龍岡町  
吐鳳堂醫科器械店  
振替東京二七六五四番(電話一六七二番)



60  
150



終

